



東京都生まれ。横浜国立大学大学院教育学研究科修了。横浜市内の公立小学校教諭、主幹教諭を経て、現職。専門分野は、教育工学（授業設計、情報教育）、教科教育法。共著書に「タブレット端末で表現する協働的な学び」（フォーラムA）など。

# 写真と文章を関連させて読み、読み広げにつなげる

今回は、読書単元「本は友達」を取り上げます。美しい写真と文章で構成された「里山は、未来の風景」（二三年上）を、写真と文章を関連させながら読むことで、児童の読み広げへの意欲を高める実践をご紹介します。

## 1 読書単元「本は友達」

各学年一か所の読書単元「本は友達」では、児童が楽しく本と出会い、読書の世界を広げていけるよう、さまざまな観点から「本」や「読むこと」「読書」について考える場が設けられています。本を使って調べたり、本を薦めたり、自分と本、自分と読むこととの関わりを考えたりする学習活動と読み物教材が一体化され、効果的な読み広げが期待できるつくりとなっています。

実は先日、三年「本は友達」の授業をする機会に恵まれました。本単元は、二つの教材「本を使って調べよう」「里山

は、未来の風景」と、コラム「本の分類表」から成る単元。位置づけられている言語活動は「記録文や報告文、図鑑や事典などを利用して調べる」ことです。まず、「本を使って調べよう」で図書館の利用のしかた、本を使った調べもののしかたを学習した後、読み物教材「里山は、未来の風景」を読んでもっと知りたいことを見つけ、本を選んで調べるといふ活動の流れが想定されています。

図鑑や事典、他の科学読み物などの読み広げへと導くためには、「もっと知りたい！」という児童の興味や関心を引き出すことが鍵となります。そこで、美しい写真とともにつづられたこの読み物教材を、デジタル教科書を使って、写真と

## 2 単元の指導目標

◎目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むことができる。（読1カ）

○いろいろな本や文章を読み、調べる対象についての語彙を増やすことができる。（伝国1イテ）

〈言語活動〉記録文や報告文、図鑑や事典などを利用して調べる。

## 3 単元の指導計画（全六時間）

### ▼第一時

図書館の利用方法を確かめ、学習の見通しをもつ。

### ▼第二時

図鑑や百科事典などの特徴や使い方を調べる。

### ▼第三～五時

「里山は、未来の風景」を読み、文章と写真を関連させながら読むことよさを理解したり、もっと知りたいと思ったことをノートに書き出した

ここで活用!

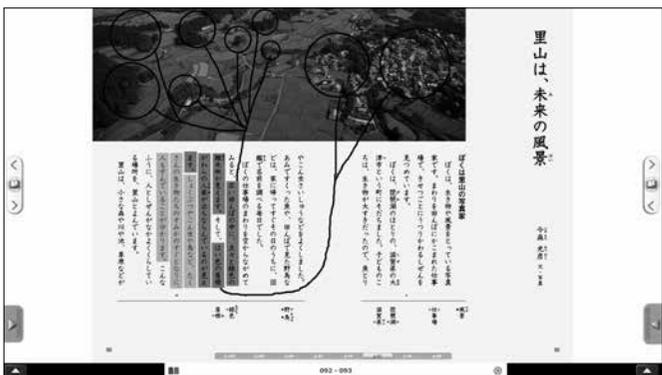
### ▼第六時

学校図書館で本を使って調べたり、学んだことをどのようなときに生かしたいか考えたりする。

## 4 活用のポイント

### ■第三時の授業展開

本時は、第三～五時の一連の学習の最初の時間です。指導計画に即して、文章と写真を関連させながら読むことで、文



▲写真の○印と文章の赤線を関連させたり、青線を引いたりしたデジタル教科書の画面。

章だけでは分からない、より詳しい情報が得られることに気づかせるためにデジタル教科書を活用します。初めのまとも「ぼくは里山の写真家」をみんなで音読しながら、文章と写真を関連させて読むとはどういうことなのかを、デジタル教科書を使って教師が示すのです。

具体的には、文章に傍線を引き、それと関連する写真の内容に○印を付けて、それらを線で結びます。このとき、写真の中に関連する内容がある文には赤線を、

ない文には青線を引くようにします。

例えば、「広い田んぼの中に、点々と緑色の雑木林が見えます。」には赤線を引き、写真の雑木林のところに○印を付けて、それらを線で結びます。このとき、「写真を見ると、筆者の仕事場の周りに雑木林があることが、よく分かりますね」と確認するようにしました。同様のことを繰り返すうちに、児童は、写真と関連させながら読むと、文章だけでは分からない詳しい情報を得ることができるのだと気づいていきます。

また、「しよくぶつやこん虫や鳥など、（中略）人もすんでいることが分かります。」という文には青線を引き、これについてもっと知りたいときには、文章を読み進めるか、図書館にある図鑑などで調べる必要があることを確認しました。

このように、これからの学習の方向づけをする際に、デジタル教科書が大活躍しました。なお、本時のデジタル教科書の履歴は次時でも使用するので、保存しておきます。

### ■第四時の授業展開

本時は、前時の学習を生かして、自分の教科書に線を引いたり印を付けたりしながら、一人読みをします。「里山の

田んぼ「里山の水辺」「里山の雑木林」「里山はしぜんのおくり物」のまとまりの中から一つを選び、文章と写真を関連させながら読んだ後、デジタル教科書を使って発表し、クラス全体で共有するようにします。その様子を詳しく紹介します。

### 【読み方を振り返る】

読む前に、デジタル教科書で前時の学習履歴を提示し、写真の中に関連する内容がある部分には赤線を、写真には関連する内容がない部分には青線を引きながら読むことを確認します。履歴の提示は、これまでなら手書きの模造紙などを使わなければならないかもしれませんが、デジタル教科書を使えば、前時に保存した学びの足跡をそのまま示すことができます。

教科書へのかき込みを嫌がる児童には、教科書紙面をコピーしたものを用意しておくとういでしょう。

### 【文章と写真を関連させながら読む】

例えば、「里山の田んぼ」のまとまりでは、「棚田」「山を切り開く」「曲線をえがく」「あぜ道」「生き物」などがキーワードになります。机間指導では、児童がそれらのキーワードに、どのように線を引いているかを確認していきます。

「棚田」「山を切り開く」「曲線をえがく」は、写真を見ることでより詳しく様子が分かるので、赤線が引かれる部分ですが、なかには青線を引く児童もいます。そのようなときは、児童が青線を引いた理由も確認しておくことが大事です。

このときは、「山を切り開く」に青線を引いた児童から「どうやって山を切り開いたのか分からない」という言葉が出てきました。これは読み広げに目を向けさせるチャンスです。私はすかさず、「そうだね。そうしたら、それを自分で調べるといいんだよね」と声をかけました。こうして拾っておいた児童の言葉は、この後クラス全体で立ち止まって考えさせたいときに使うこともできます。

大体の児童が読み終えた頃に、同じ内容を読んだ者どうしでペアになって交流させます。

### 【叙述に即し、線を引いた理由を考える】

その後、「里山の田んぼ」「里山の水辺」のまとまりについて、デジタル教科書を利用して全体で共有します。ペアの二人で、線を引いたり印を付けたりしながら分かったことを発表させます。このとき、赤線を引く係、それについて説明する係というように、各自に役割をもたせると

大切なのです。このように、写真と文章を行ったり来たりすることで、そこに示された事実をつかむだけでなく、「次はこんなことを調べてみたい」という児童の意欲を喚起することにもつながりました。

### 【#1】

「写真を見ると、文章だけでは分からない『物の形、色、散らばり方などの様子』を知ることができる」とまとめ、次時では、「里山の雑木林」「里山はしぜんのおくり物」のまとまりについて読んでいくことを伝えました。「ここを担当していなくても、読んでみたい人は読み進めておいていいですよ」と伝えておく、児童の関心や意欲をより高めることにもつながるでしょう。

### ■第五時の授業展開

デジタル教科書で学習履歴を提示して前時の振り返りをした後、「里山の雑木林」「里山はしぜんのおくり物」のまとまりについて全体で共有しました。担当ではないのに、ここを読んできたという児童がいる場合には、大いに褒めるようにしましょう。

これらの文章の中には、「クスギ」や



▲デジタル教科書では、授業中にかき込みを入れた画面を保存し、後で「履歴一覧」から開くことができる。

よいでしょう。そして、青線を引く際にその役割を交代させれば、みんなに発表の機会を与えることができます。

ここでは、前述した、机間指導の際の「山を切り開く」についての児童の言葉を、全体に投げかけてみました。ペアで交流した後、この児童のペアでは、青線から赤線に考えが変わってしまったことからです。なぜ考えを変えたのか、まずその理由を聞くと、「(デジタル教科書の写真の山のところを指し示して)周りに山があるので、ここを崩して田んぼにした」ということは分かるから、赤線にしました」ということでした。

この部分をしっかりと読んでいない児童もいるので、全員で声に出して読み、考えることにしました。何人かの児童が、デジタル教科書の写真を指し示したり、それを拡大したりしながら自分の考えを次々に話していきます。そして、最後には「山を切り開いて田んぼができたという事実は写真を見れば分かるけれど、誰がどういう方法で切り開いたかまでは分からない」ということで、みんな納得しました。

単に、赤線を引いたのか、青線を引いたのが大事なのではなく、なぜそうしたのかを、叙述に即して話し合うことが気がつきました。そこを声に出して読んでみると、筆者の考えが書かれている部分であることが分かってきます。デジタル教科書は、本教材が、里山の様子を伝える文章や写真と、筆者の考えを述べた文章から構成されていることを理解することにも役立つといえるでしょう。

## 5 実践から分かること

本実践では、文章と写真を関連させる手立てとして、線を引いたり印を付けたりするというデジタル教科書の機能を活用しました。これにより、児童は、文章と写真を関連させながら読むことで、文章だけでは分からない、より詳しい情報を得られることに気づきました。また、その活動の中から児童の言葉を拾い、全体に投げかけて考えさせることで、「もっと調べてみたい」と、児童の意欲が高まる様子が見られました。

授業のアイデアをもちながら、手間や時間を考えてためらっている先生も多いのではないのでしょうか。デジタル教科書を活用すれば、それを実現できるかもしれません。ぜひ、考えてみてください。